＜配布基準：全担当店1部＞

平成１２年８月

安田火災記念財団 News

●発行者：財団法人安田火災記念財団　〒160-8338　東京都新宿区西新宿 1-26-1

TEL03-3349-3130　FAX03-3349-3133　http:www.yasuda.co.jp/foundation/　E ﾒｰﾙ:fvgp3340@mb.infoweb.ne.jp

平成１２年度

社会福祉助成金（ＮＰＯ法人設立資金）贈呈式開催

安田火災記念財団では、平成 12 年度社会福祉助成金として、全国の１００の障害者・高齢者福祉活動団体に対し、ＮＰＯ法人設立資金を助成しました。（１団体あたり３０万円、総額３,０００万円）現在、全国に約 2,000 のＮＰＯ法人が誕生していますが、当財団はその１割にあたる２００団体に助成したことになります。

関東地区の４７の助成先には当財団で、それ以外の５３の助成先には各支店で、「社会福祉助成金贈呈式」を開催していただいています。８月１６日現在、各支店から寄せられた贈呈式に関するマスコミ掲載記事をここにご紹介します。各支店のご協力に深謝いたしますと共に、助成先ＮＰＯ法人の活動を引続きフォローいただければ幸いです。

＊＊　掲載記事　＊＊

（主催部店）	１．東北海道支店	（掲載紙）	７／２７釧路新聞	
			８／４　十勝毎日新聞	… Ｐ．２
	２．山形・鶴岡支社		８／５　庄内日報	… Ｐ．２
	３．松本支店		８／１　長野日報	… Ｐ．２
	４．静岡支店		７／２０静岡新聞	… Ｐ．３
	５．浜松支店		７／２５静岡新聞	… Ｐ．３
	６．岐阜支店		７／１１岐阜新聞	… Ｐ．４
	７．滋賀支店		７／２９滋賀毎日新聞	… Ｐ．４
	８．三重支店		７／６　伊勢新聞	… Ｐ．５
	９．島根支店		７／１５山陰中央日報	… Ｐ．５
	１０．岡山支店		８／７　岡山日日新聞	… Ｐ．６
	１１．佐賀支店		７／１９佐賀新聞	… Ｐ．６
	１２．熊本支店		７／２７熊本日日新聞	… Ｐ．６
	１３．宮崎支店		７／２９宮崎日日新聞	… Ｐ．６
	１４．記念財団		７／２８保険銀行日報	… Ｐ．７

＊参考＊　当財団は、昭和５２年１０月に設立。主な活動は、本件の社会福祉助成のほか、わが国における優れた社会福祉学術文献を表彰する「安田火災記念財団賞」、社会福祉・社会保険・損害保険に関する研究助成や研究会、講演会の開催等です。なお、これまでの社会福祉助成の累計は、およそ 1150 件、８億５千万円になります。

1．東北海道支店

7／27釧路新聞

「わたぼうしの家」など

安田火災記念財団　2団体に助成金贈る



謝辞を述べるわたぼうしの家の佐々木副会長(左)とネットワークサロンの滝代表（右）

NPO法人（特定非営利活動法人）の設立を目指す民間福祉団体を支援する、財団法人安田火災記念財団（後藤康男理事長）の平成十二年度社会福祉助成金の贈呈式が二十六日、安田火災釧路ビルで行われた。全国で百団体が助成されたうち、釧路地域からは、釧路市の「わたぼうしの家」設立準備委員会（岩渕雅子会長）と、地域生活支援ネットワークサロン（滝文枝代表）の二団体に贈呈された。

同財団の社会福祉助成は昭和五十二年からスタートしているが、昨年度からNPO法人設立を目指す障害者、高齢者などの福祉活動を進める団体を助成している。

「わたぼうしの家」設立準備委員会は、高齢者の介護家族の会から出発し、当事者と介護家族のニーズをくみ上げた痴呆老人のグループホーム、デイサービス事業などに取り組み始めている。一方、地域生活支援ネットワークサロンは障害児を持つ親の会からスタートし、医療、福祉の専門家はじめ市民を巻き込んで、子育て相談や託児サービス事業などに取り組んでいる。

贈呈式では安田火災海上保険東北海道支店の今井一味郎支店長が「一日も早く法人化し、地域の社会福祉への貢献を期待します」とあいさつ。それぞれ三十万円をわたぼうしの家の佐々木幸子副会長、ネットワークサロンの滝文枝代表に手渡した。

8／4　十勝毎日新聞

障害児生活支援センターにNPO設立資金を寄付

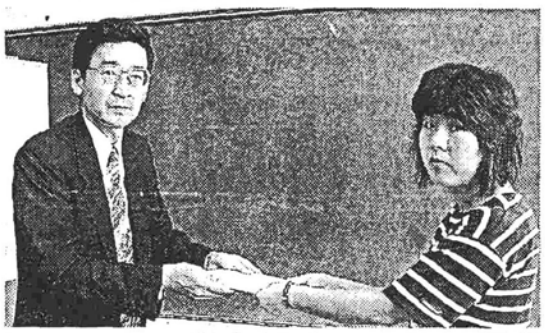
安田火災記念財団

【社会部＝岡村忍】安田火災記念財団（後藤康男理事長）は三日、障害児のための学童保育センターわいわいクラブ（増田三智代運営委員長）に、NPO法人設立資金として三十万円を寄付した。今井一味郎安田火災海上保険東北海道支店長と内田清同帯広支社長が帯広養護学校を訪れ、増田委員長に手渡した。

同財団は社会福祉助成金として全国百の障害者・高齢者福祉団体に対し、特定非営利活動法人（NPO）設立基金として各三十万円の助成を決定。道東地区からは同クラブを含む三団体に決まった。

同クラブは養護学校に通う児童生徒の母親らで五年前に設立。放課後生活支援センターとして現在二十一人の子供たちが通っている。今年度内にはNPO法人の設立を予定。

設立資金を受け取った増田委員長は「障害を持っている子供たちはまだまだ理解が得られていない。支援を無駄にしないよう活動したい」と話していた。



今井支店長からNPO法人設立資金を受け取る増田さん（右）

2．山形・鶴岡支社

8／5　庄内日報

あゆみの家に助成金を贈る

安田火災財団

安田火災記念財団（後藤康男理事長）は三日、鶴岡市家中新町の民間宅老所つるおか「あゆみの家」（石原一恵代表）に社会福祉助成金として三十万円を贈った。

同財団は昭和五十二年から毎年、全国の障害者・高齢者福祉団体に助成している。本年度は特定非営利活動促進法（NPO法）に基づく法人設立を目指す百団体で、県内からはあゆみの家が選ばれた。

あゆみの家は高齢者のミニデイサービス施設で、一日に四人前後の高齢者が通所している。先月、県にNPO法人の申請をした。

この日は鶴岡市錦町の安田火災海上保険鶴岡支社で贈呈式が行われ、佐藤脊彦支店長が石原代表に助成金の目録を手渡した。石原代表は「大変ありがたい。今後とも地道に頑張っていきたい」とお礼を述べた。



佐藤支社長から目録を受け取る石原代表（左）

3．松本支店

8／1　長野日報

岡谷腹話術の会に助成

安田記念財団

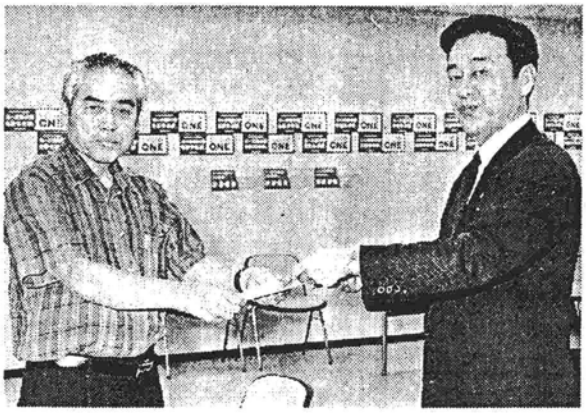
安田火災海上保険の社会福祉組織である安田記念財団（後藤康男理事長）は今年度、腹話術友の会おかや（堀内一光代表）にNPO（民間非営利団体）の法人設立資金として三十万円を助成する。三十一日、安田火災海上保険の吉沢和男松本支店長らが堀内代表に助成通知書を伝達した。

同財団は一九七七年（昭和五十二年）の設立、毎年全国の社会福祉団体へ助成金を贈呈。昨年度からは、高齢者・障害者のために活動する福祉団体がNPO法人を設立するための資金支援を行っており、全国で百団体に総額三千万円を贈呈する。

腹話術友の会おかやは、岡谷市公民館を拠点に諏訪地方の腹話術愛好者が集い、今年で十二年目。地元の保育園や老人福祉施設を訪問し、腹話術で交流。一昨年ごろからは全県や県外の老人ホームや病院から上演依頼が相次ぎ、二日に一度は施設慰問を行う人気ぶりという。

活動が活発になるとともに本格的な組織化を図ることを決め、現在、県にNPO設立認証を申請している。

通知書を受け取った堀内代表は「活動は多忙だが、訪問先でお年寄りから学ぶことも多く、楽しみつつ活動している。これからも一生懸命頑張りたい」と喜んでいた。



ＮＰＯ法人設立資金の助成通知書を伝達

4．静岡支店　7／20静岡新聞

安田火災記念財団が社会福祉で助成金

安田火災記念財団は十九日、社会福祉助成贈呈式を静岡市駿府町の県総合社会福祉会館で行った。庵原郡富士川町の県中途失聴・難聴者協会に社会福祉助成金として三十万円を贈呈した＝写真＝。

同協会は県聴覚障害者情報センターでのケアカウンセリング、県や市町村主催の要約筆記奉仕員養成講座への講師を派遣、県内巡回の難聴者元気の出る集いの開催などの活動を行っている。今後、中途失聴者や難聴者向けの商品の販売などを行うためにNPO法人設立を目指していくという。同助成金は全国の障害者・高齢者の百団体に贈られる。県内では同協会と浜松市のクリエイティブサポート「レッツ」が選ばれた。



5．浜松支店　7／25静岡新聞

浜松の知的障害児者支援団体に30万円寄付

安田火災記念財団

安田火災記念財団（理事長・後藤康男安田火災海上保険名誉会長）は二十一日、今年五月に発足した浜松市の知的障害児者クリエイティブサポート「レッツ」（久保田翠代表）にNPO法人設立資金三十万円を寄付した。

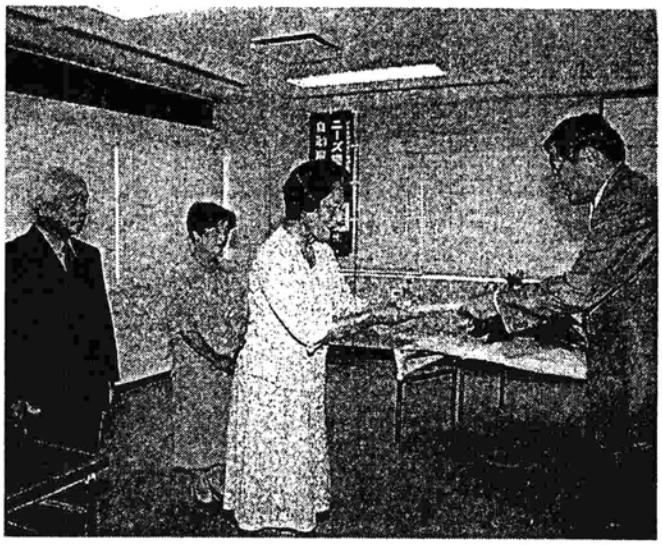
同市成子町の市福祉文化会館で行われた贈呈式では、同社浜松支店の浅野俊雄支店長が久保田代表に、助成の決定通知を手渡した。久保田代表は「NPO法人として、長く活動していきたい。感謝しています」とお礼を述べた。

同財団は、昭和五十二年の設立から社会福祉助成を行い、今年で二十三回目。今年は、全国で百団体に合わせて三千万円を贈呈した。県内ではレッツを含め二団体が助成を受けた。



浅野支店長（左）から決定通知を受け取る久保田代表
＝浜松市成子町の市福祉文化会館

6．岐阜支店　7／11岐阜新聞



杵鞭憲一岐阜支店長（右）から助成金の証書を受け取る久世須磨子代表＝大垣市旭町、安田火災海上保険

大垣の「なでしこ」がNPO設立助成対象

安田火災記念財団

民間の社会福祉団体に助成事業を行っている安田火災記念財団（理事長・後藤康男安田火災海上保険会長）の本年度のNPO（特定非営利活動法人）設立助成対象団体に、県内では大垣市の奉仕団体「なでしこ」（久世須磨子代表、団員六十四人）が決まり、十日、同市旭町の安田火災海上保険岐阜支店大垣支社で贈呈式が行われた。

同財団の社会福祉助成は一九七七（昭和五十二）年から行われており、これまでの助成金額累計は八億五千万円に上る。NPO設立資金の助成は全国百の団体に各三十万円が贈呈される。

「なでしこ」は五年前に発足。大垣市のお年寄りを中心に、毎日約五十食の配食サービスを行っている。

この日、杵鞭憲一岐阜支店長から贈呈を受けた久世代表は「NPO設立を目指したのは、ボランティアには限界がある。社会的な位置づけを目指そう、という団員の声がきっかけ。時代に合ったサービスができるよう、さらに頑張りたい」と抱負を述べた。

7．滋賀支店　7／29滋賀毎日新聞

県内2団体に社会福祉助成金を支給

安田火災記念財団

安田火災記念財団（後藤康男理事長）は今年度の社会福祉助成金として全国100カ所の障害者、高齢者団体に対し、NPO法人設立資金として各30万円、計3000万円の支給を決めた。

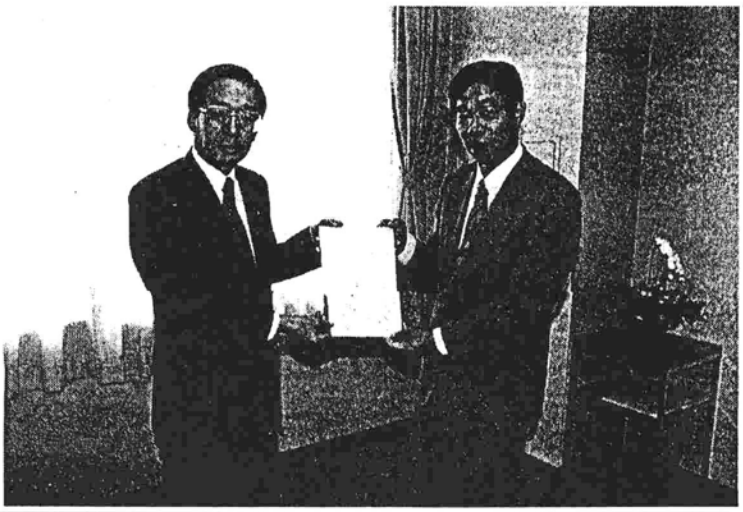
28日に県内で支給を受けたのは、大津市の「差別とたたかう共同体全国連合」（門脇謙治代表、077・543・2766）と守山市の「スペースウイン」（西村悌子代表、077・581・8436）。「差別と～」は〝共働事業所〟を開き、障害者と健常者がともに働く場所作りを目指す。「スペース～」は、和紙作りと押し花製作を通じて高齢者と障害者がともに支えあう共同作業所作りが目標。【畑山　博史】

8．三重支店　7／6　伊勢新聞

「わたぼうし」に助成金

障害者の自立支援　NPO設立資金に

安田火災記念財団



【津】安田火災記念財団（本部・東京都、後藤康男理事長）は五日、NPO法人設立資金として三十万円を贈呈した。同日、津市栄町の安田火災海上保険三重支店で贈呈式があり、同支店の岩岡雅宏業務部長が館代表に、助成決定通知書を手渡した。

式で岩岡業務部長は「一日も早く法人格を取得して、特定非営利活動法人として社会福祉の向上に貢献してください」と激励。館代表は「法人化に向けて責任を感じます。有効に使わせていただきます」と謝辞を述べた。

「わたぼうし」は、演劇など芸術を通した障害者の自立支援や、子育て支援、地域の高齢者の生活支援などを行う。

同財団は昭和五十二年創設。昨年度から、民間福祉活動を推進するため、NPO法人の設立を支援するための助成制度をスタートさせた。本年度は全国百の障害者、高齢者福祉団体にそれぞれ三十万円、計三千万円の助成を決定した。

【写真は岩岡業務部長（右）から通知書を受け取る館代表＝津市栄町三丁目の安田火災海上保険三重支店で】

9．島根支店

7／15山陰中央日報

出雲のグループにNPO設立助成金

安田火災記念財団

安田火災記念財団（理事長、後藤康男・安田火災海上保険会長）は十四日、健常者と障害者の交流グループ「出雲いきいきネットワーク」（出雲市今市町、増本雄一代表）に、特定非営利活動（NPO）法人の設立資金として三十万円を贈った。

同財団は昭和五十二年の設立以来、民間の社会福祉活動へ助成しており、昨年度からNPO法人の設立支援を始めた。本年度は全国三百団体から申請があり、百の団体に各三十万円の助成を決定。山陰両県では同ネットワークが選ばれた。

同日、安田火災海上保険の吉岡健治・島根支店長が同ネットワークの事務所を訪問。「地域社会の福祉向上に貢献してください」と決定通知書を副代表の山本栄子さん（四五）＝同市大津町＝に手渡した。

山本さんは「一刻も早くNPO法人を取得して期待に沿う活動をしたい」と感謝した。同ネットワークは年度内の法人取得を目指している。



安田火災島根支店の吉岡健治支店長から、NPO設立資金の助成決定書を受け取る出雲いきいきネットワークの山本栄子さん㊧

１１．佐賀支店　７／１９佐賀新聞

☒3団体に助成金贈る

佐賀市

安田火災記念財団（後藤康男理事長）は十八日、佐賀市神野東の同社佐賀支店で、本年度助成団体に選んだ県内の三団体に助成金を贈った。＝写真

助成を受けたのは「中原たすけあいの会」（中原町・平野征幸代表）、「ふくしさとづくりの会」（佐賀市・土井眞信代表）、「全国ＩＤＤＭ連絡協議会」（同・井上龍夫代表幹事）。

助成金は各三十万円。永谷小太郎支店長から助成決定の通知書を手渡された全国ＩＤＤＭ連絡協議会の岩永幸三さんは「活動費が厳しく、メンバーはみな手弁当。ＮＰＯ法人を取得し、活動を充実させたい」と話していた。



１０．岡山支店　８／７　岡山日日新聞

ＮＰＯ法人設立資金助成

岡山からこどもとともに交流会

安田火災記念財団

財団法人安田火災記念財団は、本年度の特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）設立資金の助成団体百団体を決定した。岡山県関係では「こどもとともに交流会」（岡山市丸の内二丁目　ＮＰＯ共同事務所内、佐々木正美代表）が選ばれた。助成額は三十万円。

１２．熊本支店　７／２７熊本日日新聞

◆安田財団がＮＰＯ設立へ助成

安田火災記念財団の本年度社会福祉助成金の贈呈式が26日、熊本市の安田火災海上保険熊本支店であった。県内からは「在宅支援ゼネラルセンター　ゼネッセ」（熊本市、田中良明代表）と「やつしろ配食サービスワーカーズ　パセリ」（八代市、森下恵子代表）が選ばれ、檀原彰支店長が30万円の目録をそれぞれ手渡した。ゼネッセは、主に熊本市内の障害者やその家族に在宅でできる仕事をあっせんしている。パセリは八代郡市の高齢者に手作りの弁当を配達している。２団体は事業の安定・拡大を目的にＮＰＯ（非営利法人）の設立を目指している。

１３．宮崎支店　７／２９宮崎日日新聞



ＮＰＯ設立資金の助成決定通知書を飯田支店長から受ける宮崎21高齢者福祉研究会の沢田孝子副会長

ＮＰＯ設立資金贈呈

安田火災記念財団

宮崎市の２団体へ

安田火災記念財団が民間福祉団体へ民間非営利団体（ＮＰＯ）法人設立資金を贈る本県関係の贈呈式は二十七日、宮崎市の安田火災海上保険宮崎支店であった。資金を受けたのは同市内で活動しているはにわの会仲間の家（森富貴子会長）と宮崎21高齢者福祉研究会（垂水卓夫会長）。

贈呈式には森会長や宮崎21高齢者福祉研究会の沢田孝子副会長、同支店や県の関係者らが出席。飯田裕久支店長が資金の趣旨説明をした後、各代表に助成金（各三十万円）決定通知書を手渡した。

はにわの会仲間の家は「障害者と共に生きる」を理念に一九八三（昭和五十八）年に設立。知的障害者の働く場「仲間の家」を運営するなど障害者の生活支援をしている。同日、県知事からＮＰＯ法人の認証を受け、二重の喜びとなった。宮崎21高齢者福祉研究会は九一年に立ち上げた。「高齢者の健康と生きがいづくり」を目標に、積極的なボランティア活動を展開。ＮＰＯ法人化は九月をめどに準備している。

安田火災記念財団のＮＰＯ法人設立資金助成は昨年から。今年は全国で二百五十七件の応募があり、選考の結果、百団体への資金助成を決めた。

社会貢献 にしひがし

災団 火財 田念 安記 NPO法人設立資金助成 ―１００団体に３０００万

安田火災記念財団（有吉孝一理事長）の平成12年度社会福祉（NPO法人設立資金）助成贈呈式が21日、東京・新宿の安田火災本社43階で行われた。

障害者・高齢者福祉団体に対するNPO法人設立資金助成が、この社会福祉助成の狙いで、今年度は応募があった257件の中から審査を経て、100件の助成が決定している。選考に当たった松尾武昌・全国社会福祉協議会常務理事は、①全国的に配分漏れがない②任意団体としての活動実績を重視した③新しくチャレンジするところも盛り込んだ――など選考基準のあらましについて開示した。結局、全国100団体に30万円ずつの助成が決まっているが、関東地区は47団体に決定し、この日はこのうち40団体が出席した。また懇親会では、明日からの活動の在り方について情報交換する光景があちこちで見られた。

有吉理事長は、「当財団は昭和52年に設立し20年余になるが、主として障害者福祉等に力を入れてきた。NPO法人設立への資金助成は今年で2回目になる。助成先に対する専門家による相談会を設けるなど幅広い支援体制を敷き尽力しているが、今後一層の強化を図っていきたい」とあいさつ。安田火災とともに社会福祉事業の下支えになる考えを表明した。

なお、茨城県日立市のワークスたんぽぽを支える会の森田隆昌さんが代表して、有吉理事長から決定通知書の交付を受けた。



関東地区贈呈式であいさつする有吉理事長（上）、車いすでの出席者も多く財団への期待は大きい（下）

